

第6章

本事業に対する 各国首脳等のメッセージ



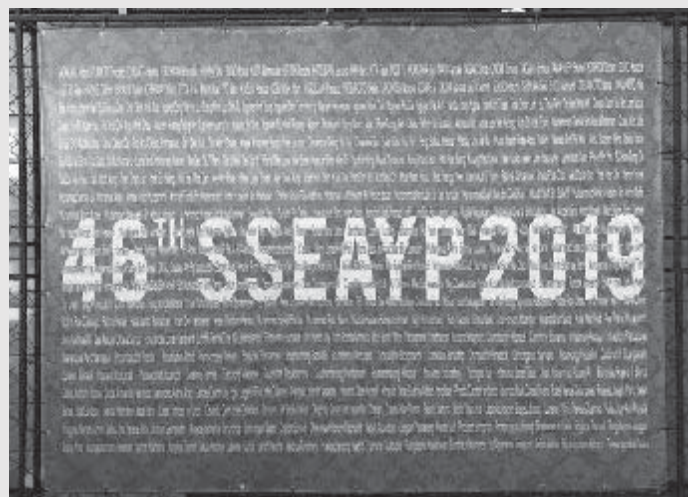
ベトナム



シンガポール



ミャンマー



マレーシア

● 安倍晋三内閣総理大臣からのメッセージ

第46回「東南アジア青年の船」事業に参加される各国代表の皆さん、日本へようこそ。心から歓迎いたします。

私は、総理就任以降、皆さんのお国10か国を全て訪問し、行く先々で温かくもてなしていただきました。来週も、タイで開催される日・ASEAN首脳会議に出席し、日本とASEAN間の重要課題について議論してまいる予定です。

未来を切り拓くのは「人」であり、とりわけ、今後、日本とASEANの未来をつくるに当たっては、皆さんのような若い力が非常に重要です。

「東南アジア青年の船」は、そのような若い力を育むべく、約半世紀にわたって、我が国とASEANの青年の交流を促進してまいりました。これまで1万2千人に上

る青年が参加し、その経験を礎に様々な分野で大いに活躍されています。

皆さんは、これからの航海において、異なる歴史・文化・価値観を持つ多くの仲間と出会うこととなります。大いに語り合い、相手の国の素晴らしさを学び、また、自らの生まれ育った国への誇りを再確認しながら、深い絆を築いていただきたいと思います。

皆さんが、今回の航海を糧として、アジア、そして世界の平和と発展のために貢献していくことを願っています。

令和元年10月31日

表敬訪問

内閣総理大臣官邸にて

2 ベトナム

● Mr. Nguyen Ngoc Luongベトナム国家青少年委員会常任副議長・ホーチミン共産青年同盟書記長からのメッセージ

この数か月間、ホーチミン市受入委員会及びベトナムの青年たちは、第46回「東南アジア青年の船」事業（SSEAYP）の日本及びASEAN各国参加者の受入れに向けて非常に懸命に取り組むと同時に、この時を楽しみにしていました。本日、ベトナム国家青少年委員会、ホーチミン共産青年同盟及びベトナムの青年を代表し、皆様へ歓迎の意を表します。ベトナムで実り多い活動ができること、そして第46回SSEAYPの成功を心から願っています。

日・ASEAN間の関係が深まるに伴い、これらの国々の青年による協力関係もより強化されています。この数年間、多くの青年活動によって、ASEAN各国と日本の人々、青年は友情を育み、相互理解は進みましたが、その中でもSSEAYPは知名度が高く、最も規模が大きい有意義なプログラムの一つです。46年間の本事業実施を通し、本事業は、参加者に現代社会や統合環境で必要な能力を与え、日本とASEAN各国間の良好な関係と相互理解を促進する等、人々の期待に応えてきました。SSEAYPに参加した皆さん一人ひとりが本事業において、現状そして将来を担う各国の青年たちに影響を与えるような経験を得ると同時に、探求し学び、そして相互をより理解し合うべく分かち合い、協力関係を強化していると真に感じます。

ベトナムは工業化と近代化を推進しています。その目標を達成するために、ベトナムは外交関係を広げ、積極的に世界との深い統合を目指しています。我々は地域の国々

との友好及び協力の発展だけでなく、地域の平和、安定、発展、繁栄に向けて努力することに注力しています。

昨年に引き続き2019年も、ベトナムがSSEAYPの訪問国の一つであることを嬉しく思いますし、美しく、平和で、友好的で、発展を続けるベトナムに皆様をお迎えできることを大変嬉しく思います。ホーチミン市での滞在において、ベトナムの歴史、文化、人々や青年たち、そして青年組織などを通し、素晴らしい経験を積むこと、また、全ての訪問が忘れ得ぬ時間となり、我々各国間の良好な関係を更に促進するよう願っています。ベトナム国家青少年委員会及びホーチミン市幹部は、第46回SSEAYPを成功に導くために最善を尽くすことをお約束します。

この機会に、ベトナム国家青少年委員会を代表し、本年及び今後に渡りSSEAYPの実施において協力関係にある日本政府とASEAN各国政府に最大の感謝の意を表します。また、ホーチミン市でこのような素晴らしい訪問国活動を運営する、ホーチミン市党委員会及び人民委員会、そして、ホーチミン共産青年同盟ホーチミン市委員会に対し感謝します。

第46回SSEAYPの成功を祈っております。ありがとうございました。

令和元年11月10日

到着歓迎式

タンカン・ヒエップフオック港にて

3 シンガポール

● Mr. Baey Yam Keng交通省・文化社会青年省政務官からのメッセージ

シンガポール政府及びシンガポール国民を代表し、ASEAN各国及び日本の青年大使を始めとする、全ての皆さんへ心から歓迎の意を表します。皆さんは航海の途上にあり、シンガポールを初めて訪れる方もおられると聞いています。

シンガポールにとって特別な年である2019年に、寄港地としてお迎えできることを嬉しく思います。今年は近代シンガポールの基盤ができて200周年という記念の年です。

しかし、シンガポールの歴史は、スタンフォード・ラッフルズが上陸した1819年に始まったのではなく、実際は700年以上の歴史があります。歴史を通して、シンガポールは常に世界中から多様な人々、物品、考え方を受け入れてきました。我々は常に地域に広がる社会文化及び地政学的な流れと共にあり、それら全てが国の進化を形成しました。

今朝、皆さんが海路でシンガポールへ到着したことは、この伝統に続くものであり、この事業が、この地域の相互連関性と相互依存、そして共有する歴史と公益といった地域全体の進歩と発展を考察する機会を与えてくれることを願っています。

「東南アジア青年の船」事業は1974年に始まりました。それ以来、この事業はASEAN各国と日本から12,000人以上の参加青年の友情を育み、相互理解を深める上で重要な役割を果たしてきました。

このユニークな事業は、共同生活やディスカッション、訪問国でのホームステイ等の文化交流を重視しています。また、地域社会の課題の理解や国際協力の促進にも有益です。45年以上に渡るこの事業の実施は、間違いなくASEAN各国と日本の人々の親善と信頼構築に貢献してきました。

そして、この信頼という重要性は、我々そして特に若者が直面する、次第に複雑化する課題を考慮する際、強く誇張すべき点です。皆さんは気候変動の影響、グローバル化の潮流、新技術導入における仕事や将来の雇用への影響などの課題についてよくご存知でしょう。制度への信頼レベルが低下し、不平等が深刻化しています。若者の多くが将来に対して確信がもてず、健全な社会の実現に不安を抱えています。

若者は、これらの課題に取り組むための備えが必要です。現在、そして将来に向けて重要となるいくつかの資質について紹介します。

- 第1に回復力。目標を達成し、課題を克服するために、強い決意とやり抜く気力を持ちます。
- 第2に生涯にわたる学習。人生のあらゆる段階で成長するために必要なスキルを身につけることにより、継続的な学習の精神をもちます。
- 第3に協力関係。多様性を受け入れ、自分とは異なる人々と働く方法を学びます。
- 第4にケア。社会に貢献し、あなたの才能とスキルを使って他の人々を助け、導きます。

ここシンガポールでは、若者が未来に対するビジョンを共有し、彼らのアイデアを具体的な行動に移すことを目的に、本年、「SG青年行動計画」を策定しました。皆さん全てが自分自身のリーダーであり、各地域及び他地域社会に良い影響をもたらす能力を持っています。皆さんはSSEAYPを通じ新たな知識を得て、なおかつ人間関係を構築するでしょう。皆さんが積極的に地球市民になることに期待すると同時に、さらに情熱を注ぐ分野でイニシアチブを担い先導し、ASEAN、日本、そして世界をより良くしてください。これが私からの皆さんへのお願いです。

SSEAYPの継続的な実施と支援に対し、日本政府内閣府に感謝します。この事業の長年の実施と成功は、地域の友情及び協力の促進という日本の長期的ビジョンの証です。パートナーシップと統合の拡大のために、ASEANの発展と協力強化に向けたこのコミットメントを歓迎します。

また、SSEAYPインターナショナル・シンガポールのメンバー、SSEAYP事後活動組織及びホストファミリー家庭へも、事業成功に導いてくださっていることに感謝します。

有意義な旅でありますように。ありがとうございました。

令和元年11月16日
歓迎昼食会及びホームステイ・マッチング
リゾート・ワールド・セントーサにて

4 ミャンマー

● Dr. Myo Kywe 国家教育政策委員会議長からのメッセージ

ミャンマーのヤンゴンに皆様をお迎えし、歓迎夕食会を開催することは大変名誉であり、嬉しく存じます。

ミャンマーの青年がSSEAYPに参加を開始したのは1997年であり、この素晴らしい参加の機会を得るのは本年で23回目になります。これまで計645名のミャンマー参加青年とNLが本事業の恩恵を受けています。

この事業は、日本政府が生み出した最も重要で有益なプログラムの一つであり、地域連携と自国のアイデンティティを構築し、日本とASEAN各国との友好関係の強化に大きく寄与してきたといえるでしょう。

またSSEAYPがヤンゴンに寄港するのはこれが4回目であり、皆さんの訪問が楽しく価値あるものになることをお約束します。

ヤンゴンの様々な大学を訪問し、現地の学生と交流し友人となり、新しい知識や経験を彼らと分かち合うことを楽しんでください。

明日も短い時間ではありますが、ミャンマーのホストファミリーと一緒に過ごし、忘れられない経験ができることでしょう。ミャンマーの料理、文化や伝統、ミャンマーの人々のライフスタイル、親密な親子関係を体験してください。またそれを通し、ミャンマーの人々の親しみやすさと温かいもてなしの心に触れるでしょう。

これらの活動が、この事業の非常にユニークな点とい

えます。日本とASEAN地域がこの事業に参加することにより、参加青年は国際的な視野を広げ、より深い友情と相互に理解する力を育むことができます。

この事業は、日本及び東南アジア諸国の参加青年が一堂に会し、船内及び日本や当地域の国々で様々な活動に積極的に関与しますが、文化、教育、社会、スポーツ活動及び多様な構成の各国訪問活動を通じ、ネットワークを拡大し、東南アジア諸国と日本の文化と伝統の相互理解を深めるという本質的目的を達成しました。

最後に、「東南アジア青年の船」事業の運営管理において、リーダーシップを発揮し、本事業に共に取り組みご尽力くださっている日本政府に心からお祝い申し上げます。

また、管理官を始め、過去の事業同様、当事業を大きな成功に導いてくださった関係者に心から感謝します。

ヤンゴンでの残りの日々を楽しく快適に、そして思い出に残るひとときをお過ごしいただけるようお祈りしております。

ありがとうございました。

令和元年11月22日

歓迎夕食会

スーレー・シャングリラ・ヤンゴンにて

5 マレーシア

● Mr. Syed Saddiq Bin Syed Abdul Rahman マレーシア青年スポーツ大臣からのメッセージ

まず初めに、本日到着歓迎会に御出席の船長、管理官、関係者、ASEAN各国と日本のNL及び参加青年の皆さんに対し、心から歓迎の意を表します。

「東南アジア青年の船」事業（SSEAYP）は、今年で46年目を迎えます。1974年に始まったSSEAYPは、毎年ASEAN各国と日本から319名もの青年が参集し、船内で生活を共にするというユニークな事業です。

ASEAN各国と日本の青年が一堂に会し、約2か月間生活を共にする機会をもつこの交流事業は、参加者が経験や知識を共有する十分な時間を与え、様々なバックグラウンドを持つ青年たちは、お互いの国を訪問し、その国の生活、文化、経済、政治の側面をより深く知り、親密な関係を築き知見を高めることができます。

今回の航路は、ベトナム、シンガポール、ミャンマーに寄港し、マレーシアは、にっぽん丸が東京で航海を終える直前の寄港地であると聞いています。我々は皆さんを歓迎し、マレーシアらしいおもてなしができることを誇りに思います。

この訪問国活動で皆さんは、地元青年との交流プログラムに参加したり、ホームステイを行ったりします。ホームステイや青年交流などの訪問国活動は、マレーシア社会における多民族性の文化と生活を知る機会になると思います。

この4日間の訪問国活動が、皆様にプラスになる影響を与えることを願っています。マレーシアのおもてなしは、お互いが会うだけでなく、心で繋がることです。すなわち、温かさ、誠実さ、寛大さ、それらが我々のスローガン「Malaysia Truly Asia（マレーシア、真のアジア）」が示していることです。

この事業は、主権国である日本とASEAN10か国の支援により、毎年成功裏に実施されています。この協力を実現した日本及びASEAN各国へ祝意を表します。マ

レーシア政府はASEANと日本の市民との出会いや直接交流を通じて、この地域の新世代による発展を目指し、地域及び国際的な理解を強化できると信じています。

21世紀において我々が直面している課題は、グローバル化、貿易や投資の自由化、コミュニケーションの強化、情報の普及などが急速に進み、世界はより小さく、なおかつより複雑になりました。重要な課題は、多様性に対する理解と相互尊重を深めることです。

SSEAYPはASEANと日本の青年のネットワークを構築し、緊密な関係を築くための有効な手段であり、各国間の将来の協力関係にとって、見通しは明るいといえます。

ここにいる誰もが将来の有能なリーダーになる可能性があると考えています。皆さんは人々を元気づけ、この事業で培った国際親善や友好関係を広めることができます。地域の平和と安定により、我々の国は人々の繁栄と生活の質の向上に重点的に取り組むことができます。

この機会に、各省庁、政府機関、SSEAYP国際ショナル・マレーシア（KABESA）、協賛スポンサー、個人及びホストファミリーに対し、この事業の成功への多大なる貢献と協力に対して、心から感謝申し上げます。

最後に、マレーシアへ全ての参加者を歓迎すると同時に、皆さんが素晴らしい時間を過ごし、楽しい思い出を持ち帰られることを願っています。「東南アジア青年の船」事業の成功を祈ります。

ありがとうございました。

令和元年11月29日
到着歓迎式及び表敬訪問
ドルフィンホールにて